



図10： 米国環境予測センター（NCEP）の解析による、オゾンホールが顕在化した1979年以降の南極域（南緯50～90°）成層圏高度約18 km（気圧50 hPa面）における日々の最低気温の遷移。最も外側の包らる線が、これまでの最低と最大気温を、グレーの領域は、それぞれ確率度数で10～90%及び30～70%の領域を示す。赤色が、2003年南極上空での実際の最低気温の推移である。2003年は、6月から10月まで、ほぼ歴代最低気温で推移したことが判る。